

e-Selp

Vol.20

2024.3

ワークハウス らしく

就労継続支援B型ワークハウスらしくが福井市の農事組合法人から受託したトマトの収穫作業の様子です。



会長挨拶

福井県社会就労センター協議会

会長 朝日 正 幸

いまだ終息のみえないコロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、それらに伴う物価高騰、パレスチナ自治区ガザでの激闘、新年に発生した能登半島地震や羽田空港衝突事故、この先何が起こるか想像がつかない。暗い話題の絶えない世の中ですが、県内においては少しでも明るい笑顔を灯せるよう頑張りたいと思います。

この夏、「3年ぶり」という言葉がよく聞かれました。感染対策をとりながら、各地では花火大会やお祭りなどが行われ、コロナ禍前に少し戻ったようでした。オンライン会議が続いていた会議や研修が、集合型になりましたが、今後は会議の内容や感染状況によって、開催方法を選択していくことになります。

全国社会就労センター協議会（全国セルフ協）では、全国セルフ協総合研究大会（9月大分県）、全国セルフ協センター長研修会（2月東京都）等がすべて集合型のみで開催されました。

そして、昨年11月9・10日には、コロナ感染症が5類になったことで、4年ぶりに東海北陸ブロック社会就労センター研究協議会「福井大会」が福井駅前のハピリンホールにて開催され、皆様のご協力・ご支援のもと無事終了することができました。

最近読んだ本の中に「自分一人で石を持ち上げる気持ちがなかったら、二人でも持ち上げられない」というドイツの小説家ゲーテが伝えたと言われている言葉があります。チームワークはもちろん大切ですし、チームワークなくしては、いろんなことは成し遂げられません。まずは自分の気持ちをしっかり持って、その上でチームワークができたらいいと思います。東海北陸ブロック社会就労センター研究協議会は、令和4年11月に福井県での開催が決定してからたった1年間で見事成功裏にて終了することができました。ありがとうございました。

若年性認知症の方の福祉的就労と受入れについて

期 日 令和5年4月24日（月）

会 場 福井県社会福祉センター

定期総会開催時に福井県若年性認知症相談窓口 若年性認知症支援コーディネーター：夏井絵美氏を講師にお迎えし『若年性認知症の方の福祉的就労と受入れについて』と題し、講演頂きました。

令和4年度の職員研修会でも若年性認知症の方への支援について取り上げ、若年性認知症の方の福祉的就労の内容や実態把握・今後の展開等について知見を深めました。今回は管理者の方々と共に、若年性認知症の症状や進行、サポートする上でのポイントや課題などを確認することができました。県内には若年性認知症の方が230名程おられるのに対し、若年性認知症支援コーディネーターは夏井氏1名体制という実態も把握することができました。

そのような現状にいて、障がい福祉サービス事業所に求められている事や若年性認知症窓口のサポート体制、介護保険制度への移行など、様々な機関が連携し、点ではなく線のサポートで支えていく事の重要性を共有することができ、実りの多い研修となりました。



令和5年度 東海北陸社会就労センター研究協議会 「福井大会」

期 日 令和5年11月9日（木）～10日（金）

会 場 福井市にぎわい交流施設 3階「ハピリンホール」

令和5年11月9日（木）～10日（金）の2日間、福井市にぎわい交流施設3階ハピリンホールにて、令和5年度 東海北陸社会就労センター研究協議会「福井大会」が開催されました。【共生社会の中で働く・暮らすを考える】～個々が望む地域生活を支えるには～を大会テーマに、東海北陸地区から約120名の参加者が福井に集い盛大に開催されました。



叶会長



記念講演：菴（いほり）様

1日目は、全国社会就労センター協議会 叶会長より『障害福祉施策の動向とセルフ協の対応』と題し、中央情勢の報告や今後のセルフ協の方向性などに関してお話頂きました。社会情勢に大きく左右され、新型コロナウイルスや物価高騰など次々と新たな課題が発生する状況において、今後どのように対応していくべきか、そのような状況下で障害のある方々の望む地域生活をどのように支援していくべきかを考える一助となりました。

記念講演は、県内在住の ORELABproduction ソーシャルデザイナー：菴（いほり）連也氏より、「希少難病における現状と今後の課題」と題し、FBC アナウンサー：東海氏とご登壇くださり、生い立ちや現在の活動など映像を交えてお話下さいました。

2日目は、東海北陸ブロックの各県からシンポジストをお招きし、個々の望む地域生活に関し事業所の実践報告や課題などを発表頂きました。地域との繋がりを大切に古民家を再生しグループホームを展開している事業所や、伝統工芸の担い手として技

術を教わり取り組んでいる事業所、親亡き後を見据えエンディングノートを作成し、本人の望む生活を支援している事業所など、様々な取り組みについて知見を深めることができました。また今回の研修では、オープンチャットでも質問を受け付け、会場から多くの質問が上がっていました。シンポジストの方々も一つ一つの質問に丁寧に回答くださり、活発なシンポジウムとなりました。閉会式が行われ令和7年度は三重県で開催されます。

フロアでは県内事業所の自主商品が販売され、研修に参加された方だけでなく、ハピリンを利用されている一般の方にもご来場いただくことが出来ました。売上向上という点だけでなく、セルフの取り組みやセルフ商品を多くの方に知って頂く機会にもなりました。

1日目の夜にはアオッサ3階「ウェルアオッサ」にて、情報交換会が開催され約70名の方が参加されました。福井県の郷土料理や地酒を楽しみながら、日頃の仕事の話など和やかな雰囲気の中で交流を深めることが出来ました。福井県の特産品とセルフ商品をセットにした大抽選会也大いに盛り上がりしました。

今大会が盛況で終わることが出来たのも、各事業所から運営スタッフとして協力して下さった職員の方々のお陰と心より感謝いたしております。事前の打ち合わせ通りに進まない部分もあったかと思いますが、運営スタッフ同士で連携し対応して下さった事で滞りなく進行することが出来ました。昨年度のナイスハートバザールで職員同士の繋がりができ、今大会の運営を通じて更にスタッフ同士の関係を深めることが出来たと実感しております。

ご協力頂き本当にありがとうございました。



開会式



シンポジウム



閉会式（次期開催県：三重県）



販売ブース



調査部会 調査結果報告（一部抜粋）

本年度調査部会では、以下の3項目について調査を実施

令和5年10月実施 [会員事業所数=45カ所]

① 発達障害者への支援 [回答事業所数：22]

主に「社会性の障害」「コミュニケーションの障害」「想像力の障害」への支援が必要とされる発達障害者について、事業所の利用と実態について調査した。

全回答はコチラから⇒



発達障害のある方の平均年齢は？

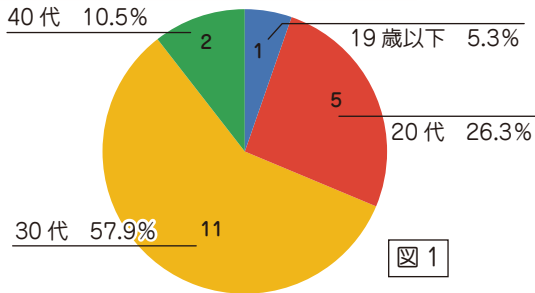


図1

発達障害のある方の在籍年数は？

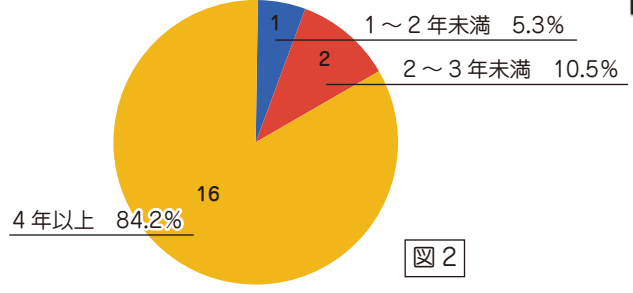


図2

発達障害のある方の支援で困っていることは？（複数回答可）

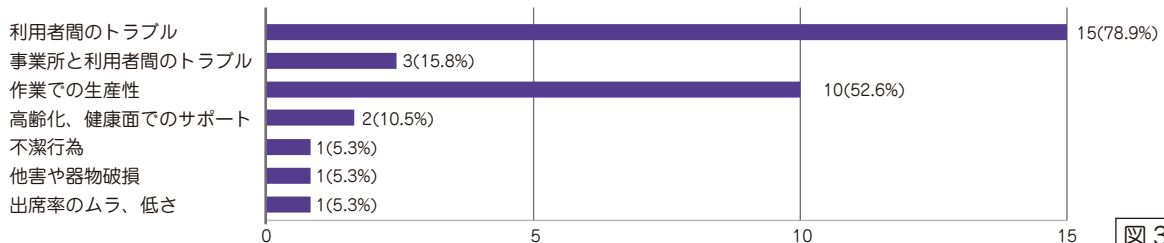


図3

発達障害のある方の退所に関して 退所理由は？（複数回答可）

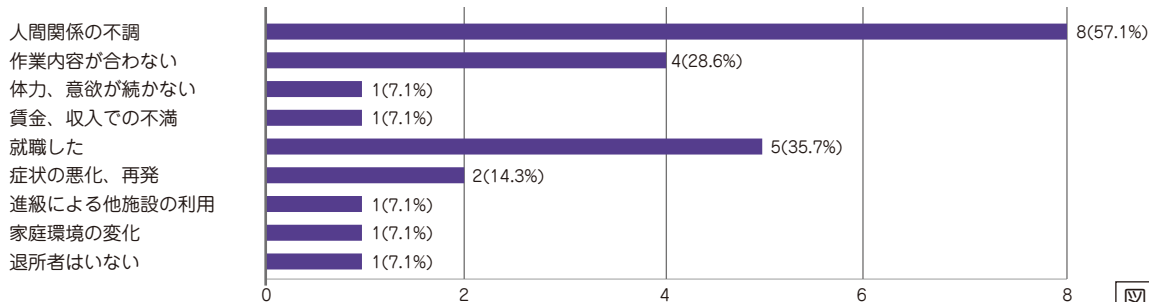


図4

退所後の行き先は？（複数回答可）

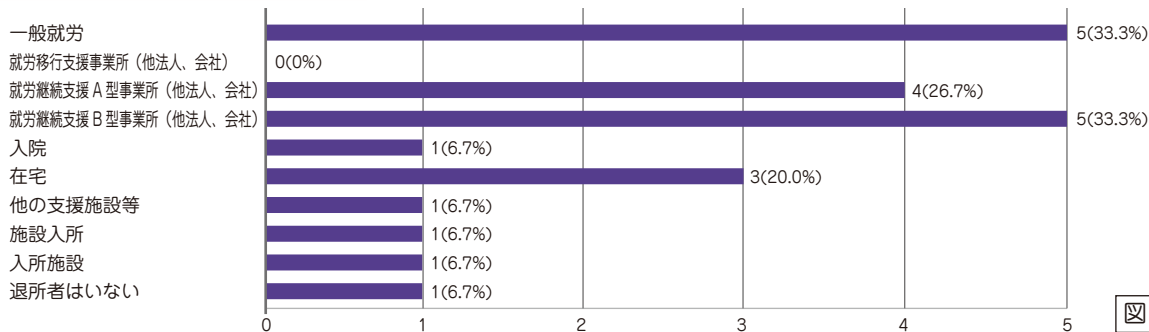


図5

【結果】

今回のアンケート結果において、発達障害の方の年齢は30代と若い方が多く（図1）在籍年数は4年以上の方が8割（図2）を占めており、学校卒から定着出来ている方も多いようだ。発達障害の方への支援については、多くの事業所が利用者同士のトラブルで困っていることが一番多く（図3）、事業所を退所された方の理由についても人間関係がうまくいかなかった（図4）ということである。発達障害の方に対しては人との関り・コミュニケーションでの課題が大きく支援の困難さが伺える結果となった。

また事業所を退所した後の行先は、一般就労や就労継続支援A/B型事業への移行が多い調査結果（図5）であるが、その定着状況は気になるところである。

② 利用者の高齢化 【回答事業所数：23】

全回答はコチラから⇒



多くの事業所で課題となっている利用者の高齢化の状況、支援の在り方、関わり方を調査した。

利用者平均年齢は？（多機能の場合は合算）

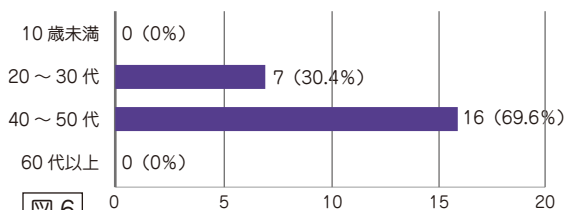


図6

65歳以上の利用者が、別のサービスに移行する基準該当項目は？（上から順に）

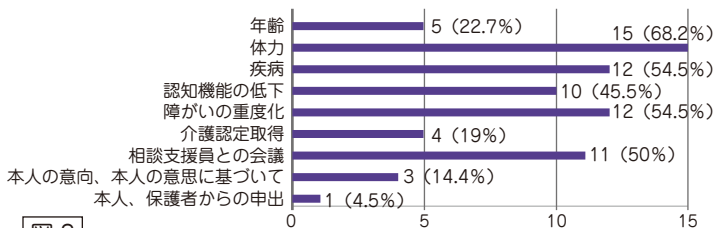


図8

全利用者の内、65歳以上の利用者の割合は？

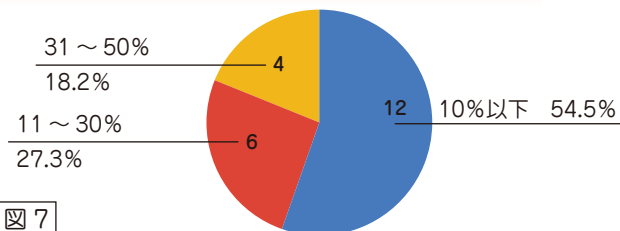


図7

円グラフ「就労系福祉サービス利用契約解除後の移行先（生活介護・介護保険事業所等）を確保していますか？

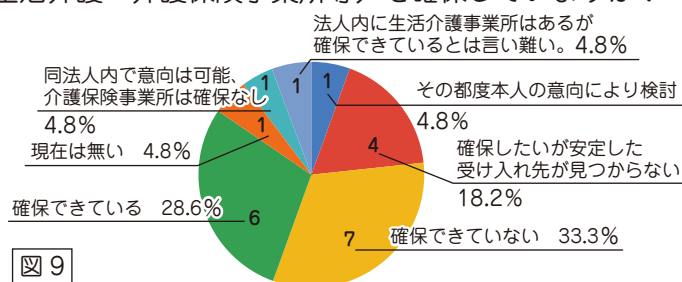


図9

【結果】

平均年齢は働き盛りの40～50代が多くみられる（図6）が今後65歳以上の占める割合が増えていくことが予想される（図7）。また、別のサービスに移行する基準として、年齢だけでなく体力が大きく占めていることが窺える（図8）。移行にあたり、各事業所の職員やその方に関わるそれぞれの職種のスタッフと連携をとり、利用者の方の意思や状態を考慮しスムーズな移行を図ることが望ましい反面、その後の移行先の確保が課題と考えられる（図9）。

③ 職員への処遇 【回答事業所数：25】

全回答はコチラから⇒



事業所で働く職員の働きやすさ、離職防止、研修、処遇改善に関する対応、制度について調査した。

年間休日の日数は？

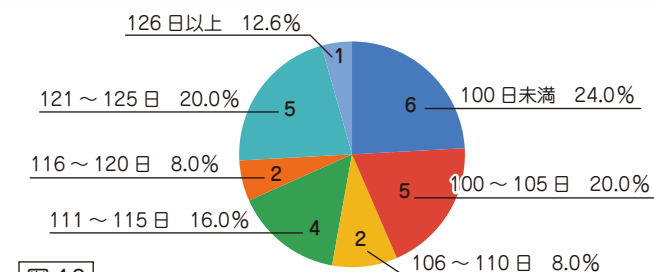


図10

福利厚生について実施しているものを全てお答えください。

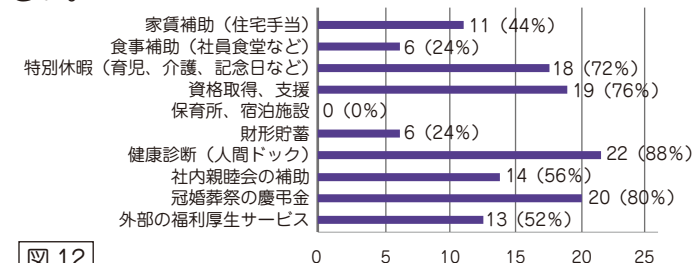


図12

【結果】

労働事報が実施した2022年度労働時間総合調査によると、全産業の年間所定休日数日の平均120.5日に対し、本調査では平均110日前後（図10）と、約10日間の差がみえた。また、人材育成や支援の質の向上に関する研修（図11）や、様々な福利厚生（図12）を実施しているが、人間関係、業務内容等のミスマッチや、家庭環境の変化を機とした離職が目立っている（図13）。

（回答：実施している）内部研修の内容について教えてください。

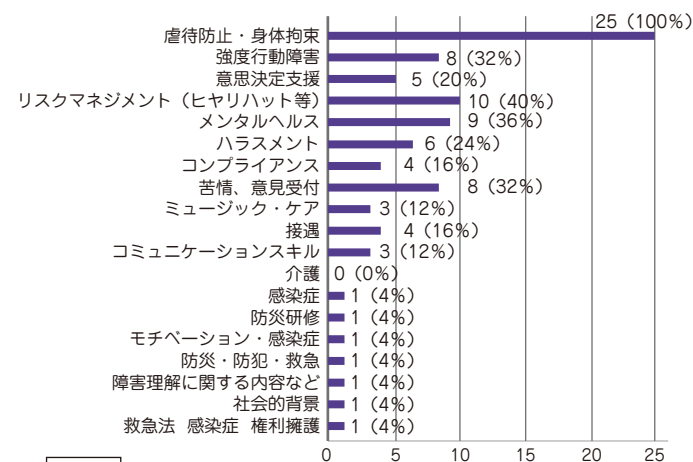


図11

これまで離職した職員の主な離職理由（3つまで）を教えてください。

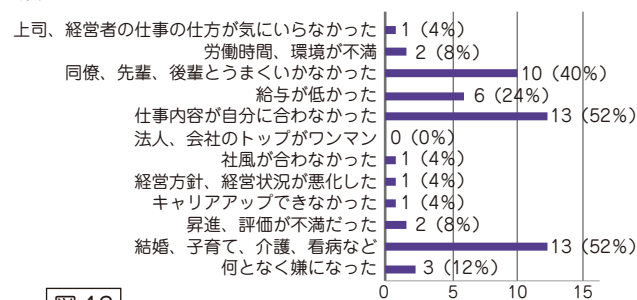


図13

企画部会 セルフ総合スキルコンテスト

今年度のスキルコンテストは参加者が全員集合しての開催となり、4部門それぞれに多くの方が参加されていました。

私の主張部門では昨年まではコロナの影響でビデオ撮影にて行っていましたが、今年は会場での開催となり、皆さん緊張されながらも全身を使いながら熱い思いを話されていたのが印象的でした。



サービス部門は接客なので、お客さんとのやり取りに緊張されていましたが、皆さんの笑顔が素敵でした。ワーキング部門・調理部門では時間制限がある中での作業で真剣なまなざしで計算している姿や調理している姿は普段各事業所で仕事に取り組んでいる姿を見ているようでした。

私の主張部門

発表時間内（4～5分）で、自分の考えや思いなどを主張しました。テーマは「私の仕事」「私の好きなこと」から選んで発表しました。

 優勝	福授園神中事業所 山下 由華さん
 準優勝	ぴーぶるファン 水野 英行さん
 第3位	足羽ワークセンター 吉田 教将さん
 特別賞	ぴーぶるファン 吉田 圭佑さん



優勝コメント：福授園神中事業所 山下由華さん
緊張したけど、しっかり言えたので良かったです。賞をもらおうと思わなかったで、びっくりしたけど楽しかったです。



ワーキング部門

制限時間（5分）内で、電卓を使用して計算問題（全15問）を解きました。

 優勝	ひまわりの家 Aさん
 準優勝	ぴーぶるファン 坪谷 亮哉さん
 第3位	ぴーぶるファン 高田 敏治さん
 特別賞	うめのき 山田 真也さん

優勝コメント：ひまわりの家 Aさん
一生懸命頑張りました。ありがとうございます。



調理部門

制限時間（30分）内で、チャーハンの調理、盛り付け等を競いました。

 優勝	足羽ワークセンター 寺野 知香さん M・Mさん
 準優勝	ぴーぶるファン 杣 陸也さん 打谷 有加さん
 第3位	ぴーぶるファン 藤原 慎吾さん O・Kさん
 特別賞	セルフあすなろ 竹内 朋靖さん 松浦 辰夫さん



優勝コメント：足羽ワークセンター 寺野知香さん
M・Mさん
優勝出来て嬉しかったです。

サービス部門

お客様の注文に対して、おもてなしの心と接客サービスの技で競いました。

 優勝	ぴーぶるファン 荒井 柚明さん
 準優勝	ぴーぶるファン 打谷 有理さん
 第3位	ぴーぶるファン 加藤 聖菜さん
 特別賞	セルフうらら 川島 健太さん



優勝コメント：ぴーぶるファン 荒井柚明さん
初めての挑戦で緊張したけど、優勝出来て嬉しかったです。



今回交流活動でエアロビクス体操を行いました。スキルコンテストでの緊張が解けて事業所の仲間も集まったこともあり、笑い声や笑顔があふれていました。



社会福祉法人つつじ会 就労継続支援（B型）事業「千草の家」

その人なりのペースで働ける支援

一人ひとりにあった「働く時間」「仕事内容」について話し合い、その人なりのペースで働けるよう支援しています。

その人の作業能力「できること」に注目して、仕事を提供しています。仕事としては、農作業、紙箱折、衣料品等の包装やプラスチック製品の梱包などの軽作業があります。利用者が、できることの増える喜びを感じ、自信を持てるように作業指導しています。人それぞれ得意、不得意の作業がありますが、皆さん頑張って仕事をしています。



藤稔が実っている様子



シャインマスカットの袋掛け
傘掛け

定 員：25名
住 所：福井県鯖江市三六町1丁目2-5-1
電 話：0778-53-0015
アドレス：chigusa@si.ttn.ne.jp
ホームページ：鯖江 つつじ会

出荷先（地場産野菜コーナーに置いてあります）

・ハーツ さばえ店 たけふ店 神中店 ・道の駅 西山公園
・Aコープ さばえ店 東さばえ店 ・市民ホールつつじ（おもてなし会 野菜市場 毎週火曜 ※葡萄収穫時期のみ）



プラスチック製品の梱包

千草の家農場キラリ

～収穫する喜びを感じて～

野菜ハウス1棟と路地で季節野菜、葡萄ハウス2棟で3種類の葡萄を栽培しています。自然相手に試行錯誤しながら、美味しい野菜と葡萄をお届けすべく、日々頑張っています。

なんといっても目玉は、シャインマスカット、藤稔、サニールージュの葡萄です。葡萄の栽培は、9年目を迎え、今では、福井の葡萄「ふくぶる」と認められています。近所のスーパーに出荷していて、お客様から電話があるほど、大好評です。

手間ひま掛けて栽培しなければならないので、収穫では「喜び」「達成感」が味わえると、利用者は言っています。また、外での作業は解放感があり、楽しいそうです。

社会福祉法人竹伸会 総合福祉施設あけぼの園 「手づくり工房 コスモス」 就労継続支援（B型）事業

手づくり工房コスモスは、焼菓子やスイーツを製造・販売し、工賃向上を目指しています。

また、受注作業や喫茶での作業も加わり、個々の能力に合わせて『明るく、楽しく、元気よく』をモットーに取り組んで頂くことで意欲や責任感に結びつけています。



定 員：20名（現員：18名）
住 所：福井県福井市田尻谷町38-46-5
電 話：0776-98-3568
アドレス：akebonoen.kosumosu@piano.ocn.ne.jp

※クッキー&カフェ『サニースマイル』
営業時間：10:00～17:00
月曜日から金曜日まで（土曜日・祝日は不定休）



クッキー&カフェ『サニースマイル』は、しみずの自然が一望でき、淹れたてのコーヒーを飲みながら、ゆったりとくつろげる空間になっています。

そして、生活介護の利用者様が作られた雑貨やコスモスの焼菓子も購入する事ができ、地域との繋がりを大切にしています。

社会福祉法人佛子園 (Share 金沢・B'sWork) に視察に行っていました。

令和5年9月26日(火)、【セルプ学習会 視察研修】を開催しました。

Share 金沢は、人が直に繋がり、共に暮らすまちを目指し、高齢者や大学生、障がいの有無に分け隔てなく誰もが共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街を目指し活動しておりました。



病院の跡地を活用している施設は、音楽やアート、リラクゼーションサロンなど様々な施設が入り、施設内の住民同士の交流はもちろん、地域の住民たちが温泉やライブハウスに集い、アミューズメント施設の利用を通じて様々な交流が生まれており、コミュニティが形成されたそこには「小さなまち」がありました。

Share 金沢は、いろんな人とのつながりを大切にしてつくられていること、そして、障がいを持つ方、高齢者の方に福祉的サービスを提供するのだけではなく、一人ひとりが主体性をもって地域社会づくりに参加していることで、魅力的なまちをつかっており、障がい福祉の枠を広げる取り組みをされておりました。

また、魅力的な取り組みの1つとして、まちの中の道がわざと狭く作られていることが印象的でした。その理由は、道が狭いと通る時に道を譲り合う思いやりが生まれ、それが会話につながりコミュニケーションを取ることが出来る。というものでした。



B'sWork は、「ごちゃまぜ」をテーマに、人が集い、人のつながりを日常の中で作り出すことで、地域をもっともっと元気にすることを目指し活動しており、地域づくり部門でグッドデザイン特別賞を受賞している施設は、徒歩圏内の周辺地域を対象にしたタウン型の生涯活躍のまちを目指したものであり、障がいを持った方々も健全な地域住民の方々も、だれもが等しく利用できる、分け隔てのない地域の駆け込み寺の役割を果たしておりました。

施設の構成は多岐にわたり、福祉・医療施設としての高齢者デイサービス、障がい者生活介護や保育園、内科クリニックに加え、交流施設として天然温泉、食事処、ウェルネス（健康増進施設）、温水プール、フラワーショップなどが併設され、様々な人びとが「ごちゃまぜ」に集まり、まちを形成しておりました。地下1,340メートルから湧出する源泉掛け流しの温泉は、近隣の住民は無料で入浴することが出来るだけでなく、地域でボランティアすると入浴無料券「あんやと券」の発行で、地域とのつながりを作る取り組みをされておりました。

石川県全土に広がる佛子園の取り組みは、社会福祉の枠を超え、人と人のつながりと一人ひとりの主体性で地域コミュニティを作る素晴らしい取り組みであり、我々の事業にとっても参考なる視察となりました。



令和5年度 活動内容

事業名	実施日	内 容
調査部会	令和5年4月 令和5年5月 令和5年10月	・福井県社会就労センター協議会会員名簿調査 ・福井県社会就労センター協議会会員施設調査 ・部会活動調査 ・障害福祉サービス等報酬改定に伴うB型事業所の実態と今後の展望
研究部会 (セルフ学習会)	令和5年9月26日	・『中堅職員の資質向上や情報交換を含めたネットワーク作りのための学習会の開催』 ・視察研修(Share 金沢・B'sWork)
研修部会		・職員研修会(東海北陸社会就労センター協議会福井大会開催のため中止)
企画部会	令和5年10月2日 令和6年2月	・セルフ総合スキルコンテスト開催 ・セルフ総合スキルコンテストアンケート調査
広報部会	令和6年3月	・広報紙「e-selp」の発行
総会	令和5年4月24日	・令和4年度報告・決算報告と令和5年度計画案・予算案等について講演「若年性認知症の方の福祉的就労と受入れについて」
施設長会議	令和5年7月10日	・東海北陸社会就労センター協議会福井大会について講演「福祉施設のための事業継続計画(BCP)策定のポイント」
東海北陸 社会就労センター協議会 福井大会	令和5年11月9日 10日	・テーマ:「共生社会の中で 働く・暮らす を考える」 ～ 個々が望む地域生活を支えるには ～
3団体合同研修会	令和6年3月2日	・テーマ:「災害を風化させないで! 私たちは過去の災害から何を学んでいくか! ?」

第9回アール・ブリュット展ふくい

<絵画の部大賞>

作品名 うずまき
作者名 Yamaken

作者のコメント
大賞がとれてとても嬉しいです!!
これからも良い作品が作れるように頑張ります!!

審査員講評
あふれるエネルギーと力を感じる作品です。色彩も豊かで、見る者を圧倒し心をざわつかせます。
芹川 貞夫



<書道の部大賞>

作品名 笑笑 作者名 新家 壮太

作者のコメント
習字の好きな新家さんですが、笑っている表情が多かったので「笑」を書きました。1文字ではなくたくさん「笑」を書いて止まりませんでした。

審査員講評
「笑笑笑笑」。丁度良い墨量とにじみ。文字の大小と空間のつくり方。特に1文字めの「笑」に続いている墨のゆったりとした、「ほとばしり」が作品全体の効果を高めている。そしてそこに、作者の心の余裕を感じとれる。1文字目、2文字目の傾きから、空白をおいて3文字、4文字めへの収筆が絶妙で、余裕と笑顔が溢れてくる快作。
青柳 吟風



<オブジェの部大賞>

作品名 みんなで 葉・は・ハ
作者名 ハスの実わくわくセンター紙すき班

作者のコメント
ユーカリの葉に1枚1枚顔を描いて一つの作品に仕上げました。今年はいくつもの別れを経験して、大切な仲間や家族を思って描き上げました。
審査員講評
顔を描いた葉が何枚あるのでしょうか? 描いてある顔の表情に笑顔が多いのは楽しいです。悲しそうに見えたり、怒っているみたいなのもありますね。
三田 松一郎



<写真の部大賞>

作品名 夜を待つ
作者名 竹井 ゆう

作者のコメント
氷見の海岸での1枚。とても穏やかで、これから来る夜を静かに受け入れている空気がして、今でも撮った時の事を思い出します。

審査員講評
太陽が沈んだ直後の柔らかい光の中で海鳥たちが羽を休めているカット。構図、海鳥達のシルエット、波の静けさ、全てが落ち着いた感じに表現されていて良い作品だと思います。
森 秀則

